

人権作文

人権・同和教育シリーズ

195



矢ヶ部小学校6年
大淵 琉希さん

市内の小中学生が書いた人権作文を紹介します。

ぼくたちの学校では、月に1回、みんなが互いのことを知り、仲良くなるために、縦割り班で活動する「ちかべっ子タイム」があります。

7月は、「同和問題啓発強調月間」に合わせて、オンラインによる全校での人権学習がありました。担当の先生が読んでくださった「すぎなこと」がてなこと」という本での学習を通して、ぼくが思ったことが二つあります。

一つ目は、だれにでも好きなこと、苦手なことがあるということです。ぼくは、算数が苦手です。今まで、算数が苦手なことがだめなことなんだと

考えていました。そして、苦手なことがある自分を恥ずかしいと思っていました。しかし、この本には、だれにでも好きなこと、苦手なことがあって当たり前であるといったことが書かれています。苦手なことを恥ずかしいと考えず、だれにでもあるものだと前向きに考えていきたいです。

一つ目は、好きなこと、苦手なことをお互いに助け合っていくことの大切さです。ぼくが、算数の学習で分からなくて困っているときに、クラスの友だちがぼくの様子を見て、優しく教えてくれます。友だちが跳び箱で困ってい

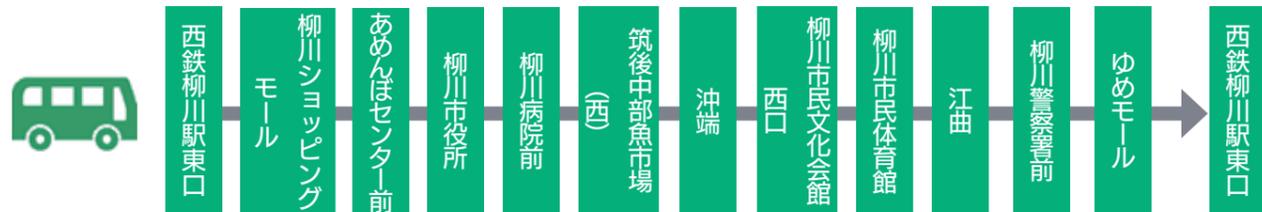
たら、跳べるようにぼくもアドバイスします。苦手なことは一人一人にあって当たり前なので、お互いが助け合っていかなければなりません。また、そこに友だち同士のつながりも生まれます。このつながりをぼくは、大切にしなければならぬと思います。

だれにでも苦手なことがあり、困ってしまうことがあります。その時に「お前、そんなこともできんとかやん。」などと言われるとその一言で、友だち同士のつながりが切れてしまします。助け合いはできません。何気ない気持ちで言った一言が相手を傷つ

けます。そうなる前に、一人一人が誰にでも苦手なことがあるということをもつ一度考えて行動しなければいけないと思います。

ぼくは、困っている人を支えられる人になっていきたいと思っています。

【先生からのひと言】
人権学習を通して、「苦手がある」ことを前向きに捉えることができましたね。これからさまざまな人と出会うと思います。互いを認め合い、つながりを大切にしながら、支え合う大切さを広げていきたいですね。



市街循環線スタート

10月1日、市コミュニティバスの市街循環線の出発式がありました。「市街循環線」は西鉄柳川駅東口や沖端など市街地を巡る循環ルートです。1回100円で誰でも乗車できます。また、1000円で12枚つづりのお得な回数券を販売。コミバス車内か市企画課で購入できます。

CONTENTS	ページ
第49回衆議院議員総選挙ほか	2-3
お知らせ掲示板	4-7
人権・同和教育シリーズ	8